



2020年8月20日

各位

会社名	株式会社エムビーエス
代表者名	代表取締役社長 山本貴士
問合せ先	取締役経営企画室長 栗山征樹 兼 管理部 長
電話番号	0836-54-1414

PCR 検査装置「双セキュリティキャビネット BOX」開発に関するお知らせ

この度、当社は、「双セキュリティキャビネット BOX」を開発したことをお知らせいたします。

双セキュリティキャビネット BOX とは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大第 2 波に備え、非接触による PCR 検査を行うことのできるキャビネットボックス型の装置です。

(特許出願中:特願 2020-090409)

記

1. 特徴

電話ボックスほど(幅・奥行 1m 高さ 2m)の大きさにより省スペースで設置が可能であるため、感染症対策実施のスペースがない街中のクリニック等でも、PCR 検査用ボックスとして感染症予防(非接触での感染症検査が可能)にご活用いただけます。

(詳細な資料は別添のとおりであります。)

2. 当社が PCR 検査装置を開発した狙い

当社の特許技術、スケルトンはく落防災コーティング工法を用いて、双セキュリティキャビネット BOX の周辺等を補強し、安心・安全に設置することを狙いとしています。

3. 導入実績

2020 年 5 月 28 日に、宇部市琴芝町にある保健センターへ寄贈いたしました。当センターの感染症外来にて検証を兼ねて実際に使用し、9 月からは山口県の委託を受けて正式に検査センターを立ち上げ設置する予定です。

今後は当センターでの利用者からの意見を基に装置を改良していき、要望があれば病院、クリニックや自治体等に供給していく予定です。

4. 今後の見通し

本件による当社の業績に与える影響は現時点において軽微であります。なお、今後、本件に関連して、業績に影響を与える事象が判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

双セキュリティキャビネットBOX

双セキュリティ キャビネットBOX

- 特許出願中 -

開発

株式会社エムビーエス



開発の目的

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大第2波に備え、PCR検査時の感染リスクを減らし、セキュリティを高める非接触型構造を考案
(特許出願中：特願2020-90409)
- 第2波は、街中のクリニックで防ぐ
- 感染症専門外来が街中のクリニックで可能に
- 双セキュリティキャビネットBOX設置で経営難に苦しむクリニックを救う

特徴と狙い

- 感染対策を実施したくてもスペースがない街中のクリニックに設置
- 電話ボックス程の省スペースで設置可能。幅・奥行き 1 m×高さ 2 m
- 院内、院外（壁越し）どちらでも設置可能



**弊社の特許技術
剥落防止工法を活かし安心安全に設置**

商品説明 (外観と設備)

検査側



防菌用グローブ



収納BOX (取り外し可)

- ・グローブ消毒用の消毒液を入れる
- ・使い捨て手袋収納ケースとして



換気システム



出入口側



照明



エアコン



インターホン・通話機能

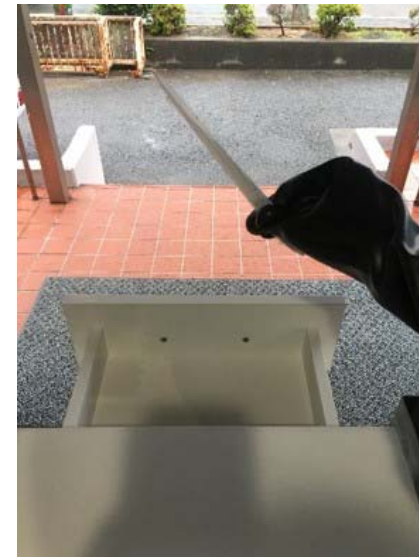


商品説明（受け渡しBOX）

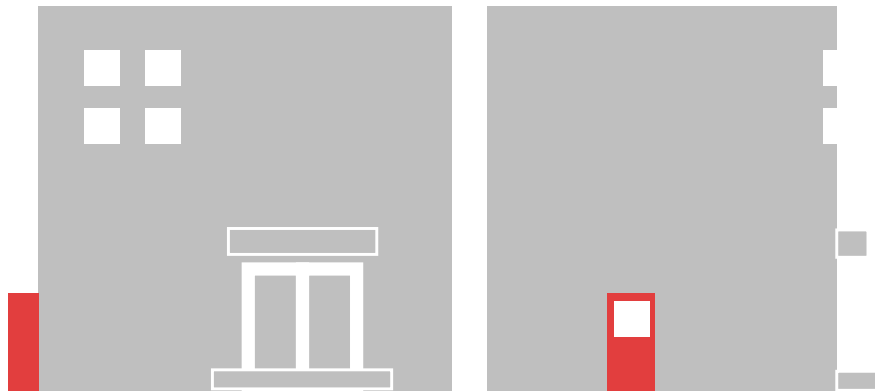
内側（医療従事者側）



外側（検査側）

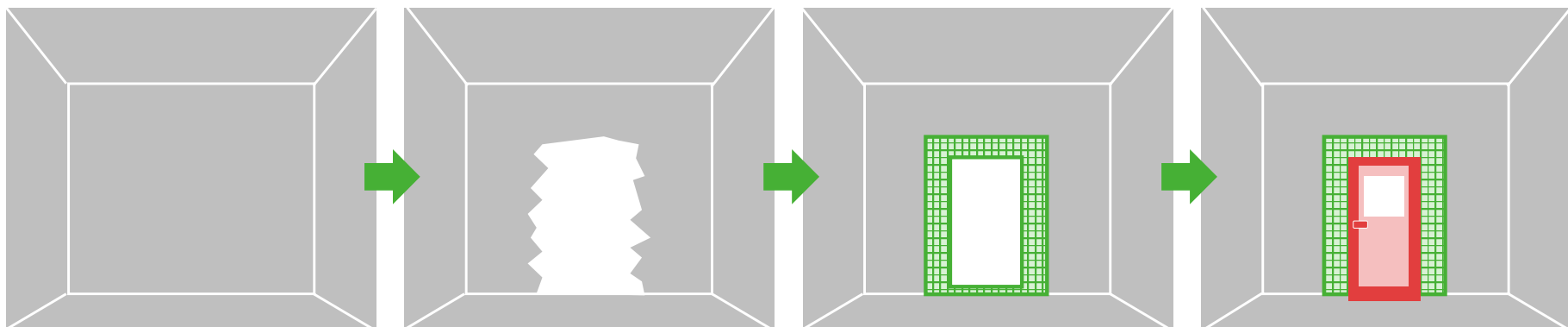


弊社が手掛けた理由

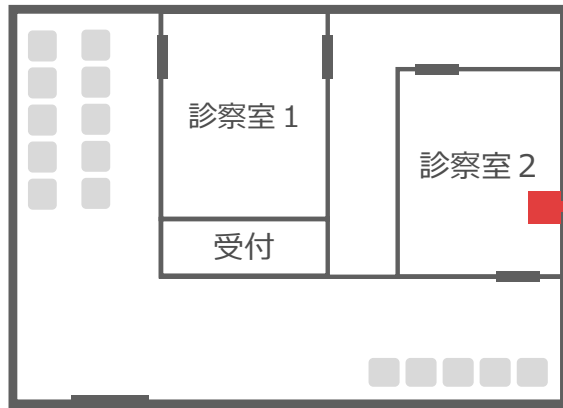


発熱外来専用受付として
院外(壁越し)へ設置する場合

双セキュリティキャビネットBOXの
周囲を剥落防止工法で補強

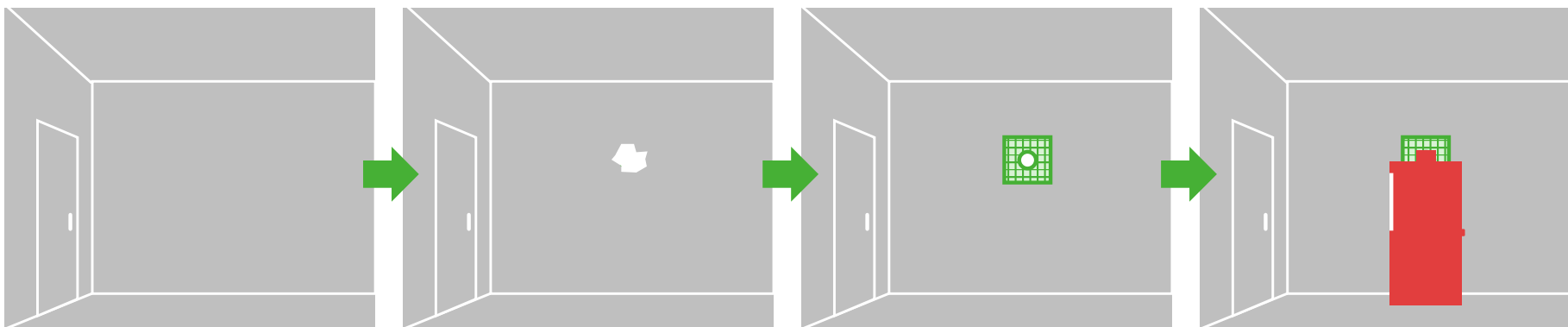


弊社が手掛けた理由



院内の発熱外来専用の診察室内へ設置する場合

双セキュリティキャビネットBOXの
換気ダクト周りを剥落防止工法で補強



導入実績

山口県：宇部市保健センター 2020年5月28日 寄贈



コロナ検査ボックスを開発

エムビーエスが市に寄贈

新型コロナウイルス、1人が内部に入り、感染を調べるPCR検査に役立ててもらおうと、住宅リフォーム業と、エムビーエス（山本貴士社長、宇部市西岐波）は、検体採取に用いる「双セキュリティーキャビネットボックス」を開発し、宇部市に贈った。市は琴芝町2丁目の市保健センターに設ける感染症外来で検査に使う。

ボックスは幅と奥行きが1.7m、高さ2.0mで持ち運びが可能。医師

「非常に考え抜かれた構造をしている。検査キットが届き次第、ボックスによる検査を始めた。市民を守るために役立てると感謝。保健師によるデモンストラーションもあつた。」（白男川）

久保田后子市長は「非常な考え抜かれた構造をしている。検査キットが届き次第、ボックスによる検査を始めた。市民を守るために役立てると感謝。保健師によるデモンストラーションもあつた。」（白男川）

贈呈式は28日に同センターであり、山本社長は「地域の皆さんや医療従事者の安心安全につなげたい。今後は利用者からの意見を基に、改良品を作り、要望があれば病院や自治体に供給したい」と話した。

新型コロナウイルス、1人が内部に入り、感染を調べるPCR検査に役立ててもらおうと、住宅リフォーム業と、エムビーエス（山本貴士社長、宇部市西岐波）は、検体採取に用いる「双セキュリティーキャビネットボックス」を開発し、宇部市に贈った。市は琴芝町2丁目の市保健センターに設ける感染症外来で検査に使う。

ボックスは幅と奥行きが1.7m、高さ2.0mで持ち運びが可能。医師

2020年7月12日 コロナ抗原検査キットを使用した検証を実施

9月から山口県の委託を受けて正式に検査センターを立ち上げるための検証の場とする